

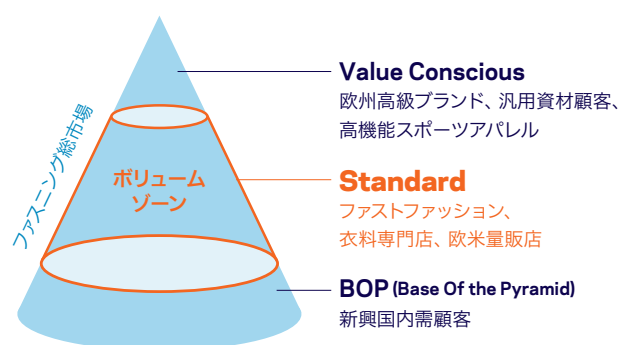
第6次中期事業方針と事業戦略

新常態下での持続的成長 ～多様な顧客要望の実現と顧客創造～

YKKグループ第6次中期経営計画（2021年度～2024年度）では、「Technology Oriented Value Creation『技術に裏付けられた価値創造』」をビジョンに掲げています。「持続可能な社会の実現に向けた創造力」の実現に向けた3つの最重要ポイント「商品力と提案力」「技術力と製造力」「多様な人財」に基づき、YKKは第6次事業方針および事業計画を策定しています。

コロナ後の新常態における大きな変化こそチャンスと捉え、「より良いものを、より安く、より速く、よりサステナブルに」を方針に、社会と共に持続的な成長を追求します。第6次中期経営計画の折り返しとなる2023年度には、激変する事業環境に即応するために組織体制を変更し、新たな体制のもと、サステナビリティを経営の根幹に据えた各取り組みを推進していきます。また、昨今の先行き不透明な世界情勢や変化を続ける事業環境に対応するべく、中期方向性に「顧客要望納期 追求」と「安全衛生管理 徹底」を追加し、顧客満足度の向上と従業員の安全確保に努めていきます。

ファスニング事業の市場カテゴリ



事業環境

社会

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響
→ 経済活動制限
→ ロジスティクス混乱、輸送コスト上昇
- 原材料高騰（非鉄金属/原油）
- 地政学リスクの顕在化

市場

- アパレル業界におけるサステナビリティ要望の広がり
- 世界的なインフレ等の影響によるアパレル市況の低迷、市中のアパレル在庫の高止まり

技術革新

- IT技術の進展による顧客バリューチェーンの変化

YKK精神「善の巡環」／経営理念

YKKグループ行動指針

〈第6次中期事業方針〉

新常態下での持続的成長 ～多様

「変化をチャンスに」

「社会への貢献」～ソーシャルグッド

「より良いものを、より安く、より速く」

中期方向性

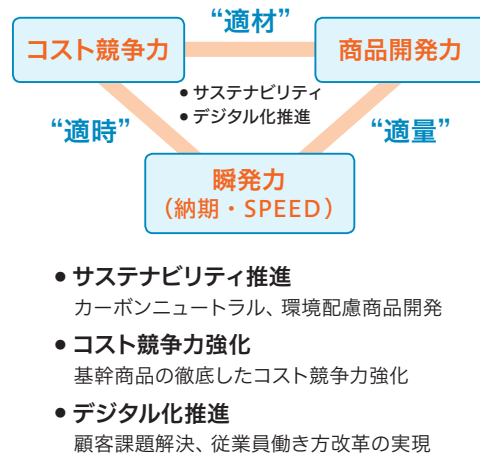
- フラットな組織体制 → P.25
- サステナビリティ強化 → P.27
- 商品企画・開発強化 → P.33
- 徹底したコスト競争力追求 → P.35
- デジタル活用強化 → P.36



- 顧客要望納期 追求
- 安全衛生管理 徹底

新常態下における事業遂行重要ポイントと目標

コロナ後の新常態においては、必要な時に、必要なものを、必要な分だけを供給する「適時・適材・適量」への要求がますます高まると考え、その具現化のために克服すべき課題として、経営の根幹に据えるサステナビリティ、基幹商品の更なるコスト競争力強化、これらを支えるデジタル化をより一層推進していきます。



(単位：億本・億円)

	(実績)			(計画)
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ファスナー販売数量	102.8	92.9 前比: 90.2 %	89.2 前比: 96.0 %	96.2 前比: 107.8 %
売上高	3,481	3,805 前比: 109.3 %	3,793 前比: 99.7 %	4,072 前比: 107.4 %
営業利益	423	437 前比: 103.2 %	333 前比: 76.2 %	412 前比: 123.7 %
売上高営業利益率	12.2 %	11.5 % 前差: -0.6 pt	8.8 % 前差: -2.7 pt	10.1 % 前差: 1.3 pt
為替	USD	112.27円	135.34円	144.49円
	EUR	130.50円	140.87円	156.67円
	RMB	17.49円	19.75円	20.15円

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」

(Code of Conduct)

な顧客要望の実現と顧客創造～

な企業であり続ける～

速く、よりサステナブルに」

YKKサステナビリティビジョン2050

- 気候  
- 資源 
- 水 
- 化学物質  
- 人権    

中長期で目指す姿

Technology Oriented
Value Creation
技術に裏付けられた
価値創造

「ソーシャルグッド」な
企業であり続ける

より良いものを、
より安く、より速く、
よりサステナブルに

中期方向性

フラットな組織体制

急激に変化する事業環境に即応するための組織再編

第6次中期経営計画期間中において、ますます激しく変化する事業環境の中でも持続的な成長を遂げることを目指し、初年度である2021年度には、事業本部制から機能別に組織を配置するフラットな体制に変更しました。また、2023年度には「事業戦略本部」を新設するとともに、営業本部の機能をベトナムに移転し、より顧客や市場に近い組織体制としました。

2024年度の組織変更のポイント

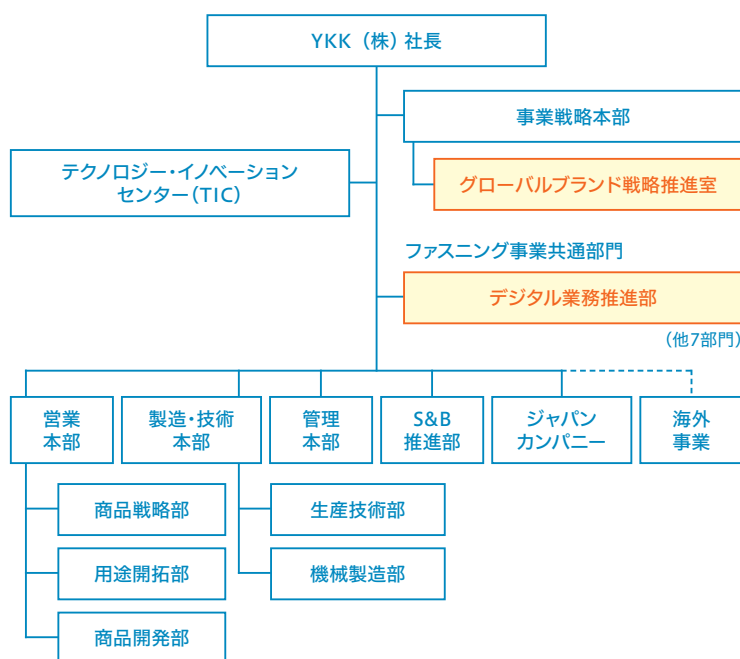
～中長期的なブランド価値向上と、グローバルでの事業基盤強化～

世界情勢と事業を取り巻く環境が想定以上のスピードで変化する中、第7次中期以降を見据え、現中期経営計画の最終年度となる2024年度より組織変更を行いました。

YKKのブランド価値をグローバル規模で中長期的に向上させることを目的として、2023年度に設置した事業戦略本部の配下に「グローバルブランド戦略推進室」を新設し、ブランドコミュニケーション戦略の立案から施策展開までを一貫して行う体制を構築しました。

また、グローバル規模で事業基盤を構築し、「One YKK」として業務を強化するため、「デジタル業務推進部」を設置し、従来の「デジタル業務企画室」を編入しました。デジタル活用を手段として、顧客に最高サービスを提供し、従業員にとってウェルビーイングな状態を実現すべく、海外も含めた組織横断で推進するとともに、それを担う専門人財を育成していきます。

YKK株式会社 執行体制（2024年4月1日～）



2024年4月1日新設

組織再編を契機にブランド戦略を再構築

第6次中期経営計画における組織再編と顧客・市場環境の変化に合わせて、ブランド戦略を強化しています。2022年には、YKKの全社員を対象に「社員ブランドアンケート調査」を実施し、およそ1万人の回答から得られた自社の強みや弱み、自社の存在意義などの「社員の想い」を基にコーポレートロゴを刷新、ブランドストーリーを再設定しました。今後は、新設されたグローバルブランド戦略推進室を中心に、全世界でブランドコミュニケーションを水平展開していきます。



YKK 新コーポレートロゴ 特設サイト
<https://www.ykk.com/japanese/logo/>

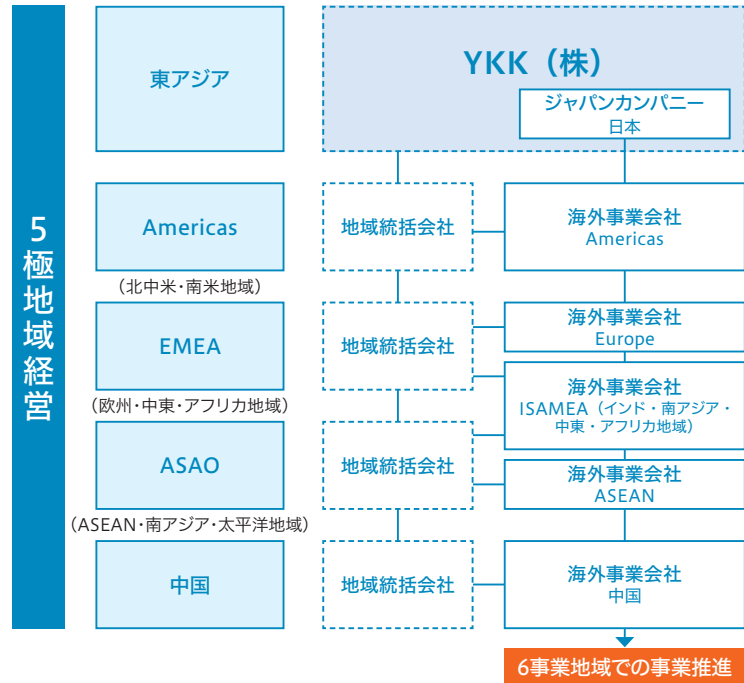


2023年3月に発表した新しいコーポレートロゴには、YKK精神「善の巡環」と経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」および「コアバリュー」に基づき、サステナビリティを経営の中心に据え、これからも前進し続けるためのスピードと、信頼され続けるためのクオリティを追求するという、社員一同の想いが込められています。

グローバル経営体制

海外地域経営体制については、2021年度より5極（東アジア／Americas／EMEA／ASAO／中国）地域経営体制を敷くとともに、ガバナンスと事業推進体制を分け、商圏や商流等の特性ごとに区分した6つの事業地域（日本、Americas、Europe、ISAMEA、ASEAN、中国）を設けています。各事業地域はそれぞれ配置された事業推進責任者（ビジネスリーダー）のもと、各地に即したマーケティングと生産技術力を強化し、事業を推進します。これにより、6つの事業地域に対して地域統括会社が資本管理とガバナンス強化を中心に経営をサポートする体制を実現しています。

第6次中期地域経営体制



理念への集団的コミットメントが組織の強さを生み出す

YKKコーポレーション・
オブ・アメリカ
執行役員 デジタル戦略担当
ジェシカ・コルク
Jessica Kennett Cork

強固な企業文化を築くことは、一朝一夕に成し遂げられるものではありません。明確に定義された会社の価値観を、長期にわたって一貫して伝えていく必要があります。11カ国、4言語、4,200万km²におよぶYKK Americasグループの真の強さは、単に多様性にあるのではなく、YKK精神「善の巡環」に表現される「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という理念への集団的コミットメントにあります。この理念は単なる言葉ではなく、トップマネジメントをはじめとする社員の日々の行動によって具現化されています。基本行動に関する週次メッセージ、コアバリュー表彰、車座集会、ワークショップなど、一貫した強化策を実施することで、どんな困難にも打ち勝つことのできる強靱な企業文化を育てています。

事業地域ごとの投資計画

経営の中心に据えたサステナビリティ、基幹商品の更なるコスト競争力強化、それらを支えるデジタル化をより一層推進するための投資として、2024年度は407億円を計画しています。第6次中期経営計画期間における大型投資（工場建設等）は2023年度でおおむね完了していますが、

引き続き、今後の成長を担う地域への積極的な投資を計画していきます。それぞれの地域特性に合わせてバランスよく投資していくとともに、サステナビリティ関連やデジタル関連への投資についても、将来に向けて重点的に実行していきます。

2024年度投資計画

中国・ASEAN・ISAMEA

日本・Americas・Europe

203 億円

202 億円

計 **407** 億円

※合計値は地域統括会社の投資計画額も含みます。

中期方向性 サステナビリティ強化

サステナビリティを軸とした経営 ～「YKKサステナビリティビジョン2050」～

YKKは、2020年10月に「YKKサステナビリティビジョン2050」を策定し、5つのテーマと関連するSDGsの達成を目指しています。社会的要請や顧客ニーズのもとに常にビジョンの点検を行う中で、気候変動に加え、生物多様性、資源循環等の循環型社会の実現に向けた取り組みをより加速させるため、この度ビジョンを改定し、新たなKPIを追加しました。



YKKふるさとの森と水辺

YKKサステナビリティビジョン2050 ～「気候中立」と「自然との共生」の実現～

テーマ・方針	目標
 気候 気候変動の抑制と適応した事業活動の展開 地球規模で起きている気候変動抑制のため、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ1.5℃に抑える努力を追求するパリ協定を支持し、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、温室効果ガス削減に取り組みます。さらに気候変動へ適応し、安定的な事業活動を展開します。	(2030年までに) - 自社およびサプライチェーンにおけるCO₂をはじめとした温室効果ガスの排出量を削減します。 Scope1+2：50%削減(基準年2018年度比) Scope3：30%削減(基準年2018年度比) - 使用電力の再エネ率100% (2050年に向けて) - 温室効果ガス排出ゼロ(カーボンニュートラル)を目指します。 - 製造方法と設備の改良、オペレーションと各工程の効率化を追求し、エネルギー使用量を削減します。 - ファスニング事業拠点に再生可能エネルギー発電施設の設置を推進します。 - Scope2の排出削減のため、外部からの再生可能エネルギー購入を推進します。 - Scope3の排出削減のため、材料の持続可能素材への変更を推進します。 2025年までに全ての石炭使用設備を廃止します。 - 気候変動に伴う災害リスクを低減します(洪水、熱波、少雨等)。 - 気候変動の災害リスクを考慮したサプライチェーンを構築します。
 資源 資源の持続的利用を高めるものづくりの実現 ファスニング事業で製造される商品や、使用される梱包材における環境負荷を低減し、持続可能な素材へと移行することで、商品のライフサイクルを通じて発生する廃棄物の削減、石油由来材料使用の削減、および循環型社会の実現への貢献を目指すとともに、生態系を守り、豊かにする活動を展開します。	(2030年までに) - ファスニング製品の繊維材料を100%持続可能素材(リサイクル材、自然由来材料など)に変更します。 - ファスニング事業で使用される全てのビニール/プラスチック製梱包材を持続可能素材や回収・再利用など、持続可能な形態に変更します。 - 廃棄物の再資源化率90%以上を維持します。 - 全ての製造拠点において、埋め立て、あるいは焼却される廃棄物の排出量を削減します。 - 生物多様性(環境課題)に配慮した調達を推進します。 - 資源を繰り返し使える、廃棄物を出さないものづくりと製品設計(耐久性向上、修理可能性、リサイクル性など)を推進し、資源循環に寄与します。 - ファスニング製品の資源循環技術の開発を行います。 - 生態系保全活動を実施します。
 水 持続的な水利用の実現 持続的な水利用に向け、地域の状況に応じた取水量削減と排水管理の強化により、地域コミュニティや生態系への負荷の低減に取り組みます。	(2050年までに) - 取水量を30%削減します(2018年度比) - 取水量の削減に向けて、水使用の効率化・再利用などに取り組みます。 - 政府の規制および、ZDHC(有害化学物質排出ゼロ)のような業界基準を基に制定した自社基準に従い、全ての製造拠点において排水管理を徹底します。 - 各製造拠点における水リスクを低減します。
 化学物質 化学物質の管理と削減 将来世代にわたり豊かな生活を残すため、化学物質の適切な管理と使用量削減により、自然環境や人への影響の最小化に取り組みます。	(2030年までに) - 有害化学物質の削減を推進します。 - 自社基準(YKK RSL)の運用：製品、製造プロセス全体の化学物質の使用を管理するための自社基準を設定し、ステークホルダーとの継続したリスクコミュニケーションを通じて有害化学物質の削減を推進します。 - 業界基準の遵守：有害化学物質の基準について、製品基準はOEKO-TEX® STANDARD 100、AFIRM RSL、製造工程管理基準はZDHC MRLSを軸にした自社基準に従い、全世界の事業所で業界基準の遵守を推進します。 - 新しい製造方法の開発：有害化学物質の使用を削減する新しい製造方法を開発します。これにより、製品の品質を確保しつつ、環境負荷を軽減します。 - 大気と土壌汚染の防止：有害化学物質の使用による大気と土壌の汚染対策を講じます。これにより、地球環境の保護に貢献します。
 人権 人権の尊重と、公正で安全な労働環境の維持 全ての人間の尊厳と権利を尊重するという世界共通の理念を重要視し、多様で持続可能な社会に貢献します。	- 多様性を認めた包括的な人権の尊重と労働環境の整備徹底により、一人ひとりが個性を活かして働ける安心安全な職場環境をサプライチェーン全体で形成し、健康で幸せに満ちた生活を支援します。 - YKK精神「善の巡環」と国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づいた、YGCC監査の持続的な実施ならびに社会的要請の変化に応じた改善を行います。

※ OEKO-TEXは、ÖTI-Institut für Ökologie, Technik und Innovation GmbHの登録商標です。

活動ハイライト

- 2023年度 CDP気候変動プログラム 最高評価「Aリスト」
- 2022年度、2023年度 CDPサプライヤー・エンゲージメント評価 最高評価
- 「YKKサステナビリティビジョン2050」改定
- サステナビリティ関連投資（設備投資）77億円（2024年度計画）



ビジョン策定プロセスやサプライチェーンマネジメント、その他2023年度の取り組み詳細は『This is YKK 2024 DataBook』に掲載しています。
<https://www.ykk.com/csr/eco/report/>

SDGs	2023年度実績	2024年度計画
 	● Scope1+2における温室効果ガス排出量 238,812t（基準年2018年度比 56.2%削減） ● Scope3における温室効果ガス排出量 587,848t（基準年2018年度比 32.7%削減） ● 使用電力全体に占める再生エネの比率 56.5% ● 使用電力を再生エネ100%で稼働する拠点数 37拠点 ● 太陽光発電設備稼働 10件（累計28拠点） ● 石炭ボイラーの更新計画策定	● SBTより「1.5℃目標」認定を受けた2030年排出削減目標の達成 およびそれを上回る排出削減に向けた施策の継続 ● Scope1+2における温室効果ガス排出量 407,991t以下（基準年2018年比 25.2%以上削減） ● Scope3における温室効果ガス排出量 742,238t以下（基準年2018年比 15.0%以上削減） ● 太陽光発電計画 10件 ● 石炭使用の廃止
	● 持続可能素材の割合 38%（前年比 +12ポイント） ● 持続可能な形態の梱包材への切替え実績 31.0% ● YKKジャパンカンパニー（黒部事業所）においてファスニング商品の主要外装梱包段ボールを環境配慮型品に切替え完了 ● 廃棄物の再資源化率 91.9% ● YKKと既に取引をしている、または取引予定があるサプライヤーに対して、「The Copper Mark」認証[®]有無の調査を実施 ● YKKのファスナーをより長く使用いただくための「リペア対応シリーズ」の販売を開始 ● YKKのファスナーに使用される銅合金、亜鉛合金の社内リサイクル技術、運用フローを構築 ● YKKセンターパーク ふるさとの森において「自然共生サイト」認定	● 持続可能素材の割合 2024年度 51% ● プラスチック製梱包材の持続可能素材への更なる切り替え ● 「The Copper Mark」認証を有するサプライヤーのみの取引を目標に、未取得サプライヤーへの認証取得を働きかけ ● 「リペア対応シリーズ」の新商品の販売開始予定 ● 衣類のリサイクル促進に向け、リサイクル可能素材を使用したファスナーの開発 ● 社内リサイクル実用化に向けた設備および技術を構築、ならびに、海外拠点での実用化検証 ● 地域に根差した生態系保全活動の実施
	● 取水量 8,898千t（2018年度比 22.1%削減） ● 取水量原単位 2022年度比 13.1%削減 ● 水使用量が少ない製造設備の導入、水リサイクル施設の新規導入（累計13拠点） ● ZDHC Wastewater Guidelineをベースとした排水管理調査実施 ● 各製造拠点における水リスク調査の実施	● 取水量原単位 2%削減（2023年度比） ● 水使用量の少ない製造設備の導入、水リサイクル設備の新規導入 ● ZDHC Wastewater Guidelineに準拠した排水管理の実施 ● 水リスク（自社基準）が高い地域において水リスク低減施策を実施
 	● YKK RSL（2023年版）のサプライヤーへの周知および適合調査実施（1,663社） ● 社会・顧客のニーズに基づくYKK RSL（2024年版）への年次改定実施 ● OEKO-TEX[®] STANDARD 100認証およびAFIRM RSL適合状況のモニタリング試験実施 ● ZDHC MRSL適合性レベル評価システムのグローバル展開 ● YKK RSL（2023年版）の不適合材料に対する代替材料の選定および材料・製造工程等の開発推進 ● 購入材料の全フッ素試験実施およびPFAS（有機フッ素化合物）代替材料への切替推進 ● プラス材スライダーにおけるAcroPlating[®] 販売数量割合 25%（前年比 +7ポイント）	● YKK RSL（2024年版）のサプライヤーへの周知および適合調査実施 ● 社会・顧客のニーズに基づくYKK RSL（2025年版）への年次改定実施 ● OEKO-TEX[®] STANDARD 100認証およびAFIRM RSL適合状況のモニタリング試験実施 ● ZDHC MRSL適合性レベル評価において、第三者評価であるInCheckレポートの継続導入・展開 ● YKK RSL（2024年版）の不適合材料に対する代替材料の選定および切替推進 ● 土壌汚染の防止のため、化学物質使用拠点の点検強化
   	● YGCCセルフチェック／監査を対象全拠点で実施（継続） ● 実施結果を踏まえ、対処すべき課題の特定、および、実施計画の策定	● YGCC監査の実施および監査結果に基づく監査項目・評価基準の見直し ● 各社における労働時間の週次管理体制構築

※「The Copper Mark」認証：銅産業の責任ある生産と国連SDGsへの貢献を示す国際的枠組み

サステナビリティ推進体制

YKK社長を委員長とするYKKサステナビリティ委員会を設置し、「YKKサステナビリティビジョン2050」の目標達成を目指して、テーマごとに専門部会を設け、課題解決に向けて取り組みを進めています。化学物質に関する取り組みをより一層強化・推進するために、2024年度より専門部会を新設しました。海外地域においても、本部のサステナビリティ方針・施策を浸透させ、実行するために、本部の委員会組織に呼応する形で各地域のサステナビリティ委員会を2021年度から設置し、お客様、そして社会からの要望にグローバルで対応する体制を構築しています。



循環型社会の実現を目指して
取り組みを加速

執行役員
サステナビリティ推進室長
吉岡 麻子

サステナビリティは、YKK精神「善の巡環」―他人の利益を図らずして自らの繁栄はない―にも通じる考え方で、YKKのDNAに組み込まれているといえます。気候変動の他、生物多様性、持続可能素材の利用の推進など資源循環の課題解決にも強く注力し、LCA評価等の裏付けデータを適切に開示しながら、サプライチェーン全体で、循環型社会の実現に向けて積極的に取り組んでいます。

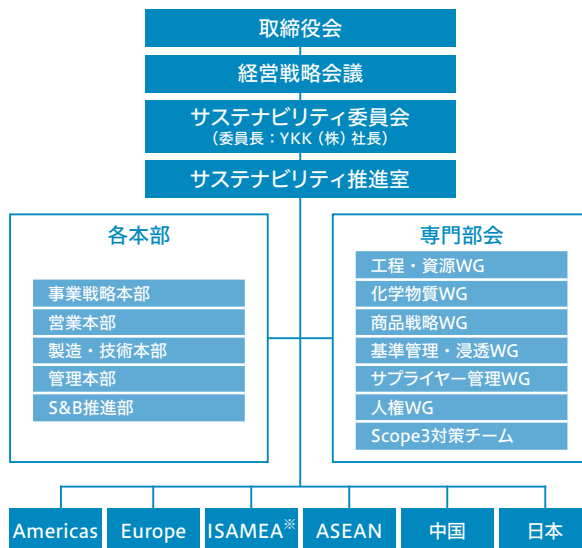
パートナーシップでビジョンを実現

YKKは、国際イニシアティブや外部業界団体へ加盟し、参画企業・団体の皆様との意見交換や協働を通じてパートナーシップを強化し、循環型社会、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化しています。

また、Cascade（旧Sustainable Apparel Coalition）が開発した環境・社会への影響を評価する基準・モジュールツールであるHigg Indexを用いたセルフアセスメントと外部監査を実施しています。Higg Index外部監査の拠点別評価結果をウェブサイトにて公開しています。

 Higg Index外部監査 拠点別評価結果
<https://www.ykkfastening.com/sustainability/higg.html>

サステナビリティ推進体制



※ India/South Asia/Middle East/Africa

サステナビリティ委員会の開催実績

実施回	開催月	内容
第1回	2023年7月	ワーキンググループ（WG）施策進捗報告、各極サステナビリティ委員会に取り組み報告（気候変動への取り組み等）
第2回	2023年9月	各WGから施策進捗報告、各極サステナビリティ委員会における取り組み報告
第3回	2024年3月	各WGから施策進捗と次年度活動予定報告

加盟団体・イニシアティブ等

（2024年3月末現在）

- 「Cascade（旧Sustainable Apparel Coalition）」加盟 2018年9月
- 「ファッション業界気候行動憲章」署名 2020年3月
- 「ネットゼロ・リカバリー」声明参加 2020年5月
- 「Textile Exchange」加盟 2020年9月
- 「SBT（Science Based Targets）イニシアティブ」による「1.5℃目標」認定取得 2021年3月
- 「ジャパンサステナブルファッションアライアンス」加盟 2021年9月
- 「エレン・マッカーサー財団ネットワーク」加盟 2022年4月
- 「生物多様性のための30by30アライアンス」参画 2022年8月
- 「国連生物多様性条約（CBD）COP15に向けた企業声明」署名 2022年10月
- 「Accelerating Circularity」加盟 2023年1月
- 経済産業省「GXリーグ」参画 2023年5月
- 「日本気候リーダーズ・パートナーシップ（JCLP）」加盟 2023年5月

さらに詳しい開示は『This is YKK 2024 DataBook』をご参照ください。

TCFD提言に基づく情報開示

2015年12月に採択されたパリ協定を受け、気候変動が事業活動に与える影響を評価する動きが世界的に広がっています。このような中で、2017年6月にTCFD提言が公表され、YKKは2019年にその趣旨に賛同しました。

YKKでは、このTCFD提言に沿って、気候変動が事業活動へ与える影響を評価し、事業戦略へ反映させる取り組みを進めています。

1. ガバナンス

YKKはコーポレート・ガバナンス体制として、経営方針などの重要事項に関する意思決定機関および監督機関としての取締役会、ならびに、監査機関としての監査役会という機関制度を基本として、事業・業務執行を推進する執行役員制度を導入しています。定時取締役会が毎月1回開催されるほか、必要に応じて臨時取締役会が開催され、事業計画、組織、リスク管理等経営上の重要な事項を全て審議、意思決定するとともに、グループ各社の業務執行状況の報告を受け、監督を行っています。

気候変動をはじめとするサステナビリティに関する経営方針・戦略については、取締役会の諮問機関として設置されているサステナビリティ委員会で討議、推進しています。当委員会の委員長は社長が務めています。

2. 戦略

TCFD提言に沿って、気候変動問題が当事業へ及ぼす重大なリスクと機会を特定・評価しています。

種類		事業への財務的影響
移行リスク	現在の規制	今後炭素税の税率が引き上げられた場合、自社工場、自社ビルの操業コストが増加するリスク
	物理的リスク	気温上昇に伴う水災害の頻発・激甚化に伴い、製造拠点が被災するリスク
機会	製品・サービス	再生材をはじめとした持続可能素材を使用した製品を拡販する機会
	エネルギー源	積極的な再生可能エネルギーの導入を行い、お客様の要望に応えることにより、製品を拡販する機会

3. リスク管理

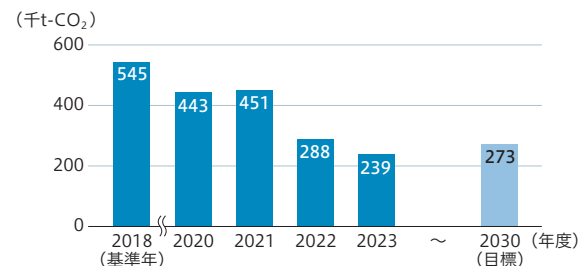
YKKでは、組織ごとにリスク項目の洗い出しを実施し、ワーストシナリオとその対応状況を考慮した上で、損害規模と発生頻度によるリスク評価を行っています。損害規模は、財務的な影響、人命・健康への影響、信用・評判への影響、社会秩序に対する影響を加味した評価を行っており、大きな影響が想定されるものは経営レベルで管理すべき重要リスクに特定しています。気候変動リスクも上述の全社的なリスク評価および管理プロセスに組み込んでおり、短期、中期に加えて、長期（2030年頃）の影響についても想定しています。

4. 指標と目標

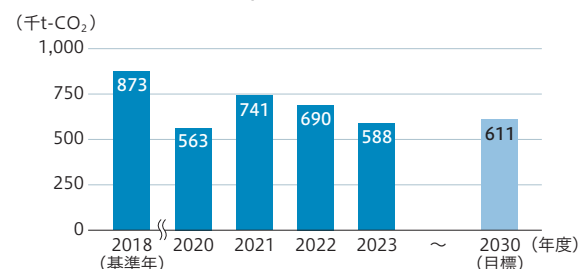
YKKでは、2050年に「気候中立」(実質排出ゼロ)を目指しており、自社およびサプライチェーンにおけるCO₂をはじめとした温室効果ガス排出量の削減目標を設定しています。また、この目標に対してSBT (Science Based Targets) イニシアティブの認定を取得しました。進捗は統合報告書で開示しています。

指標		目標
Scope1+2	自社 CO ₂ 排出量の削減	2030年度50%削減 (2018年度比)
Scope3	サプライチェーン CO ₂ 排出量の削減	2030年度30%削減 (2018年度比)

〈CO₂排出量の実績 Scope1+2〉※1



〈CO₂排出量の実績 Scope3〉※2



※1、※2：2021、2022年度のGHG排出量実績（Scope1+2、および、Scope3のカテゴリ1、2、3）は第三者による認証を取得

「YKKサステナビリティビジョン2050」実現に向けた取り組み

気候



温室効果ガス排出量

Scope1+2

56.2%

削減

Scope3

32.7%

削減

(基準年2018年度比)

2023年度のYKKグループの温室効果ガス排出量（Scope1+2）は、省エネタイプの生産設備・工場インフラ設備の導入拡大、太陽光発電設備設置などによりSBTi認定「1.5℃」目標値の「2018年度比21.0%以上削減」を上回る56.2%削減を達成しました。再生可能エネルギーの導入を積極的に進めた結果、2023年度に購入電力を100%再エネに切り替えた拠点は、2022年度より6拠点増え、世界37拠点になりました。再生可能電力証書の購入による削減も推進し、2023年度の使用電力全体に占める再エネ由来電力の比率は56.5%となりました。

また、NATULON® シリーズへの切り替えや

増販等による再生ポリエステル材の使用を促進し、バージン材使用時と比較し14,544tの温室効果ガス削減効果がありました。今後もファスニング商品の主要材料の再生材化等を進め、Scope3での排出削減にも取り組んでいきます。



太陽光発電設備写真（YKKベトナム社ハナム工場）

資源



約**6.42億本**※

のペットボトル
再資源化に相当

NATULON®の
累計販売量

※2024年3月末時点。
29g/本(500mlボトル)換算

38%

持続可能素材の割合
(延べメートル)
(2023年度)

91.9%

廃棄物の再資源化率
(2023年度)

ファスニング製品の持続可能素材化

2030年までのファスニング製品の繊維材料100%持続可能素材化に向けて、再生材を使用したNATULON® シリーズへの切り替えを促進し、持続可能素材を使用した製品の割合は2023年度38%となりました。今後はテープとエレメントに再生材を使用したNATULON Plus® の展開拡大と切り替えを促進し、循環型社会の実現により一層貢献できるよう取り組み、持続可能素材の割合を2024年度51%まで引き上げる計画です。

持続可能素材由来の梱包材への切り替え

2023年度は、各拠点でプラスチック製梱包材の持続可能素材等への切り替えを推進したほか、YKKジャパンカンパニー（黒部事業所）では、ファスニング商品の主要外装梱包段ボールを環境配慮型品に切り替えました。

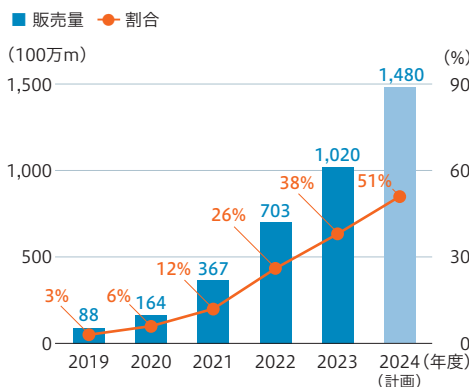
資源循環への貢献

YKKのファスナーをより長く使用いただくための「リペア対応シリーズ」の新商品を販売開始し、また、資源循環技術の開発においては、ファスナーに使用される銅合金、亜鉛合金の社内リサイクル技術・運用フローを構築しました。

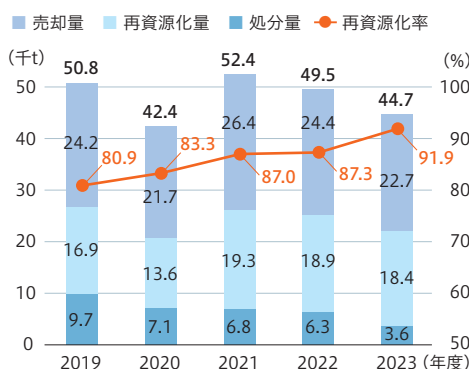
リペア対応シリーズ新商品

- VISLON® スライダーリペア対応上止
- ラケットコイルファスナー リペア対応引手
- リペア対応スライダー

持続可能素材アイテムの販売量と割合



廃棄物排出量、再資源化率の推移



VISLON® スライダー
リペア対応上止

リペア対応スライダー



リペア対応製品（YKKデジタルショールーム）
https://ykkdigitalshowroom.com/jp/b1f/eco-friendly_products/renewal/



2023年度の取り組み詳細は『This is YKK 2024 DataBook』に掲載しています。 <https://www.ykk.com/csr/eco/report/>

水



22.1%

削減

取水量削減率
(基準年2018年度比)

2023年度は、水使用量の効率化を図る生産設備や水リサイクル施設の導入を進め、取水量は8,898千t（2018年度比22.1%削減）となりました。また地域において重要な資源である水を大切に使用するため、水リスク評価シート（自社基準）を昨今の要求事項をふまえて見直し、新たな基準に基づくリスク評価を各製造拠点で実施しました。水リスクが比較的高かった6拠点においては、各地域の状況に即した水リスク低減に向けた活動を推進します。

排水管理では、排水管理強化や担当社員の環境コンプライアンスに対する意識向上に向け、排水処理設備診断・技術指導を海外12拠

点で行いました。またアパレル業界の排水ガイドラインであるZDHC Wastewater Guidelineの排水基準に準拠して、排水管理を進める方針を決定しました。



YKK Bangladesh社での排水処理診断の様子

化学物質



1,663社

YKK RSL適合調査
実施サプライヤー数
(2023年度)

2023年度は、PFAS（有機フッ素化合物）について、製造・開発部門と協働しPFAS代替材料への切替を推進したほか、ファスニング製品に関わる化学物質規制・法令と業界基準を考慮したYKK RSL（制限化学物質リスト）への適合調査をサプライヤー1,663社に実施しました。YKK RSLは社会・顧客ニーズに基づき2024年版へ改定し、サプライヤーへの周知および適合調査を継続実施しています。

有害化学物質を排除する新たな製造技術では、シアン、クロム、セレンの有害物質を100%除去したプラス材向け新めっき技術AcroPlating®の導入を進めており、プラス材スライダのうちAcroPlating®技術を使用し

た商品の販売数量割合は、2023年度25%（前年比+7ポイント）となりました。

ファスニング製品に含まれる可能性がある有害化学物質の使用削減だけでなく、生産工程で使用され、環境中に排出される可能性のある有害化学物質についても、ZDHC MRSL（製造時制限物質リスト）との適合性レベルを評価しており、本活動の継続を通じてより安全な化学物質への切り替えを推進し、自然環境や人への影響を削減することにも取り組んでいます。こうした取り組みをグローバルでさらに強化・推進するために、専門部会として化学物質ワーキンググループを新設しました。

人権



国際基準に則った
「人権尊重」
の仕組みづくり

2023年度は、人権侵害リスクの継続的軽減に向け、対象全拠点におけるYGCCのセルフチェック、およびサプライヤーなど取引先様におけるCSR状況の把握を実施し、各国／地域の各社で確認された課題への対応、リスクの軽減に向け、是正を進めてきました。中でも労働時間管理に対する要求の高まりをうけ、より厳格な労働時間管理の方針を策定しました。2024年度は方針に基づき、各社における労働時間の週次管理体制を構築していきます。

今後も、YGCCやCSR調達の実施による

人権侵害リスクの特定・評価を継続するとともに、引き続き救済制度の体系構築を進め、UNGPや今後欧州で法制化されるデューデリジェンス指令に則った仕組みへ転換を図っていきます。



YKKグループ人権方針
<https://www.ykk.com/csr/responsibility/humanrights/>

サステナビリティ関連投資（設備投資）

77億円（2024年度計画）

中期方向性

商品企画・開発強化

付加価値商品を継続的に市場投入

グローバルに事業を展開するYKKは、各地で顧客や市場の要望を捉えて商品開発につなげ、「適時」に顧客に届ける「One to One」対応を強みとしています。基幹商品の強化に力を入れるだけでなく、基幹商品にはない高機能性を求める顧客に対して魅力ある商品を拡充するとともに、顧客や社会のニーズを掘り起こし、新たな価値を提供する商品の開発にも注力しています。

2023年度の主な成果として、商品では開具にマグネット

を組み込み操作しやすくした樹脂射出ファスナーや、テープ部にストレッチ性を持たせ開閉を滑らかにした鞆向け高級金属ファスナーを開発、また多数個取り金型によるベビー分野向けの樹脂スナップの内製化を進めました。再生材比率を高めたファスナーの展開も継続して進めています。

今後は環境配慮型商品の開発強化を継続しつつ、デジタル活用による開発の更なるスピードアップを実現することで、開発アウトプットの増強を図っていきます。

市場別商品企画・開発方針

市場	主要顧客タイプ	取り組み方針
Value Conscious	● 高級ブランド ● 高機能スポーツアパレル ● 自動車内装分野等	● 環境配慮型商品の開発強化 ● 付加価値商品の継続的な市場導入
Standard	● カジュアル衣料顧客 ● 欧米量販店、Eコマース	● 徹底したコスト競争力強化

事業地域別商品開発方針



■ 開発拠点・人員 2024年度（計画） **39** 拠点／ **1,025** 名（2023年度実績：39拠点971名）

商品・技術開発事例

YKKデジタルショールームでは、お客様の声や商品開発ストーリーを多数ご紹介しています。▶

P.36


<https://ykkdigitalshowroom.com/jp/>

click-TRAK[®] Magnetic



左右の開具にマグネットが埋め込まれており、マグネットの磁力により開具を近づけるだけで、ファスナーを閉じることができる

商品です。手元を見ずに簡単に操作が可能なおことから、スポーツシーンでのスピーディーな着用やキッズウェア、ユニバーサルファッションへの展開など幅広い分野での活用を想定しています。



社員の声

営業本部 商品開発部
スライドファスナー開発室
VF開発G

越湖 智之

簡単に操作できる製品を、という根強い要望により、マグネットにより自動的に係合する開具を開発しました。より多くの方々にファスナーを使っただけ、そんなきっかけとなる商品になればと考えています。

EXCELLA[®] 横ストレッチテープ



エレメントの一つひとつに磨きをかけたメタルファスナーのEXCELLA[®] と、伸縮性のある横ストレッチテープを組み合わせたアイテム。ファスナー幅方向の負荷がかかってスムーズに開閉がしやすく、硬い革製品やバッグ、財布などのカーブが多い製品でも軽やかな開閉を実現でき、幅広いアイテムへの活用が可能です。



社員の声

YKKジャパンカンパニー
開発推進室

桐田 美幸

お客様から「お気に入りの鞆のファスナーが開けにくい」と言われたことが開発のきっかけです。ストレッチテープの伸縮効果でEXCELLA[®] の高級感そのままにより滑らかなファスナー開閉ができます。目には見えない感覚を追求したこの商品を通してお客様がより満足いただけたら嬉しいです。

「お気に入りの衣服を長く着る」体験から新たな価値を創造

近年、衣服の大量生産・大量廃棄が見直され、地球や未来のことを考えた服選びや「大切に長く着る」という考え方に注目が集まっています。その中でYKKが導き出した新たな取り組みとして Revived Replacement Elements for VISLON[®] (VISLON[®] 用リペア対応エレメント) の販売を開始しました。

VISLON[®] 用リペア対応エレメントはVISLON[®] ファスナーの務歯が取れてしまった時に、専用の治具を使用してダイキャスト製の務歯を取り付け、ファスナーの修理を可能にする商品です。専用の治具と共に展開することで、全世界各ブランドのリペアセンターでの修理が容易にできるようになります。消費者はお気に入りの衣服を長く着ることができるので、満足感が得られると同時に衣類の廃棄を減らし、環境負荷低減にも貢献しています。同様のコンセプトの商品を今後リペア対応シリーズとしてさらに拡充していきます。



中期方向性 徹底したコスト競争力追求

基幹商品の徹底したコスト競争力強化

コロナ禍を経て、市場環境はこれまでになく大きく変化しています。第6次中期事業計画において重要課題として認識しているコスト競争力の強化に向けて、今後さらに激しさを増す競争への備えとして、幅広い地域と顧客に受け入れられる基幹商品と、その商品を作り出す設備を始めとした、ものづくりそのものの徹底的な見直しを進めてきました。特に求められるのは、各地域の事業環境に応じたそ

れぞれ仕様の異なる製造ラインの構築です。組織再編を経てファスナー製造と機械製造の技術者が一丸となり、優先度の高い開発テーマにリソースを集中させることで、設備開発期間の大幅な短縮が可能となりました。これらの設備は2023年度より海外拠点に導入を開始しており、2024年度は更なる導入展開を進め、コスト競争力強化につなげていきます。

目指す姿

- 各地域の事業環境に応じた**最適な製造ラインの構築**
- 日本本部の機能再編・融合による**開発スピードアップ、コンカレントでの開発テーマの推進**
- **更なる設備価格低減**への挑戦

取り組み進捗

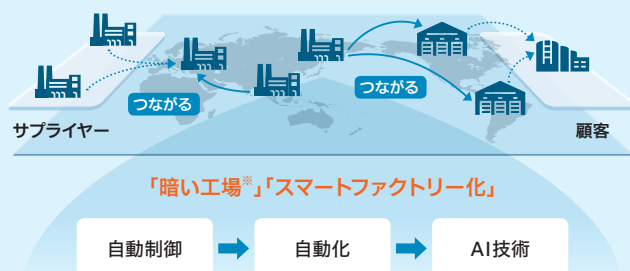
- 中国／アジアの**市場特性に応じて個別開発した設備の現地導入**（2024年度200台を超える設備導入計画）
- **VA／VE※による更なる設備価格の低減**

※Value Analysis/Value Engineering

適切な製品仕様の統一を含む 更なる加工費低減に向けた取り組みを継続

事業環境に応じた最適な製造ラインの構築とスマートファクトリー化

ものづくりの自動化が進む中、各地域の事業環境に応じた最適な製造ラインを構築することが重要になります。第6次中期経営計画においては、中国およびアジアの市場特性に応じた設備を開発し、2024年度は200台を超える設備の現地導入を計画しています。また、これらの設備の効率的な運用に不可欠な技能者・技術者育成と併せ、現場力の向上に努めています。今後、各工場を「つなぐ技術」を駆使してスマートファクトリー化を目指し、更なる技術・技能の強化を推進していきます。



※創業者吉田忠雄が目指した、無人で設備が稼働し、人が作業するための明かりを必要としない工場のこと



社員の声

YKKベトナム社 ASEAN総括
設備開発グループ長
出村 良広

アジア市場に応じた仕上機の開発では、黒部工場の技術者とYKKベトナム社が一体となり取り組みました。現地社員のアイデアが採用され、それが黒部の技術力で具現化されると、彼らは目を輝かせて喜び、大きな自信と成長につながっていることを実感しました。激変する事業環境にも、この技術力とチャレンジ精神で適応していけると強く感じることができました。これら設備はアジア各拠点に供給されるので、我々が積極的にサポートして事業競争力強化に貢献していきます。

中期方向性 デジタル活用強化

デジタル活用によるストレスフリーの追求

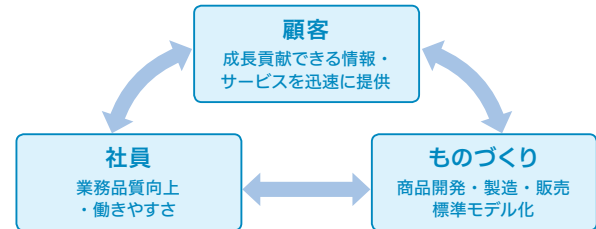
第6次中期事業計画において、デジタルの活用により各成長施策を連動するようにし、成長基盤構築と持続的な成長の実現を目的として、デジタル技術の活用による「ものづくりの強化」「お客様の課題解決」「社員の働き方改革」の3つを方針に掲げ、デジタル化を推進しています。

グローバル規模で事業基盤を構築し、「One YKK」として業務を強化するため、2024年度より「デジタル業務推進部」を設置しています。デジタル技術を活用したサービスを提供することにより、お客様の課題解決を実現するとともに、社内の意思決定や商品納期の迅速化など、業務改革を進めることで社員の働きやすさを推進していきます。今後は海外も含めて組織横断で取り組みを推進し、それを担う専門人材を育成していきます。デジタル関連への投資は、将来に向けて重点的に実行していく計画です。

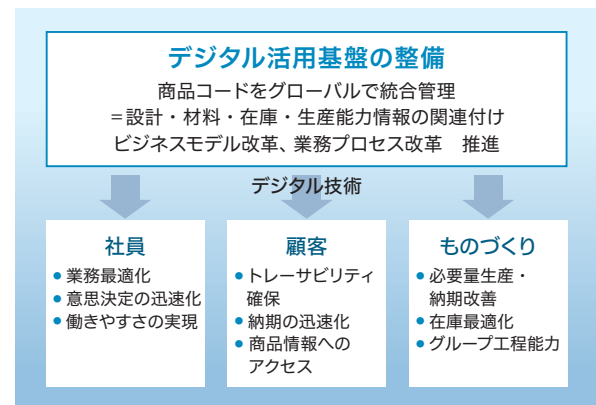
デジタル関連投資（設備投資）

43億円（2024年度計画）

ファスニング事業デジタル方針



デジタル活用に向けた取り組み



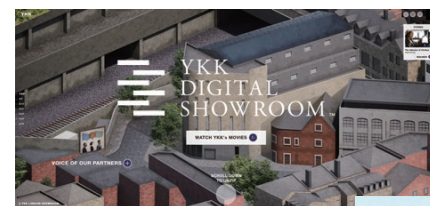
顧客の課題解決とビジネス変革の実現をサポート

アパレル業界で加速するデジタル技術活用の動きに対応し、マーケティングから商品企画・開発・製造・販売までの全バリューチェーンでデジタル化を進めています。商品情報のデジタル化によるデータ連携を図り、「適時・適材・適量」の要望に応えると同時に、商品提案と顧客とのコミュニケーションの場として「YKKデジタルショールーム」を積極的に活用しています。

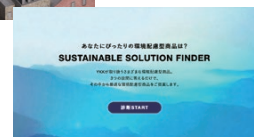
2024年3月には、お客様のニーズに最適な環境配慮型商品の選択をサポートする新機能「サステナブル・ソリューション・ファインダー」を公開しました。サステナビリティに関する要望が多様化する中、YKKの環境配慮型商品の豊富なバリエーションに馴染みのない方にもニーズに合った商品をスムーズに探していただけるように、お客様がシンプルな3つの設問に答えると、ニーズに最適な環境配慮型商品を検索・提案するものです。

お客様・YKK双方のビジネス変革とサステナビリティを実現する「デジタルトランスフォーメーション」を実践していきます。

WEB YKKデジタルショールーム（日・中・英 3カ国語対応）
<https://ykkdigitalshowroom.com/jp/>



WEB サステナブル・ソリューション・ファインダー
https://ykkdigitalshowroom.com/jp/b1f/sustainable_solution_finder/



社員の声

YKKヨーロッパ社
Deputy General Manager,
Marketing & Communications,
Europe Business Strategy Group
エンギン エルトゥールル
Engin Ertugrul

顧客に最適な環境配慮型商品を選ぶゲームのような診断ツールを追加しました。社内ですさまざまなアイデアが飛び交い、検討を重ねた内容が1つのツールとなって皆様に活用いただけることを、大変嬉しく思います。

コミュニティ活動 ～土地っ子になれ～

YKKは、事業を展開する地域の一員として、社会・環境への配慮やコミュニティが抱える課題解決への貢献など、事業を通じてさまざまな価値を提供しています。ここでは、各国／地域における最近の取り組みの一部をご紹介します。

ASAO

サッカーを通じて子どもたちの健やかな成長をサポート

YKKがASAO地域*で2007年から開催している「YKK ASAOキッズフットボールクリニック（AKFC）」。レアル・マドリード財団などの団体と連携し、サッカーを通じて子どもたちの学びと健やかな成長を支える活動で、のべ7,500人以上が参加してきました。2023年は、インド・ニューデリーの会場に53人の女の子を含む265名の子どもたちと現地の指導者が集まり、プロのコーチによる指導を受けました。これからも子どもたちの笑顔のために、将来の健やかな成長に向けた支援を続けていきます。

※ASAO：ASEAN/South Asia/Oceania



クリニックに参加した子どもたち

社員の声



YKKインド社
ナレシュ カウシク
Naresh Kaushik

私たちのプログラムで子どもたちが熱心に学ぶ姿を見ることができたのは、とても喜ばしい経験でした。これからも、この取り組みに積極的に貢献していきたいと思います。

トルコ

地震被害を受けた地域コミュニティの復興支援

2023年2月に発生したトルコ南東部を震源とする大地震は、都市部を中心に甚大な被害をもたらし、多数の市民が家を失い避難生活を余儀なくされました。この大災害を受けて、YKKトルコ社では、トルコ衣料品製造業者協会（TGSD）と共同で被災者支援プロジェクトを立ち上げ、衣類などの生活物資やコンテナ式の簡易住居320戸（約1,000人分）を寄贈。その後も被災者のニーズを聞き取り、継続的な支援を行っています。今後は、地域を支える繊維・服飾産業の復興を目標に、地域の人々と共に歩んでいきます。



プロジェクトに参加した社員たち

社員の声



YKKトルコ社
ギョクチェン カヤ
Gökçen Kaya

寒さの中で避難生活を送る人々の生活環境改善を支援するために被災地を訪れたところ、私たちの訪問を喜んでくれました。この地域への支援を今後も継続していきます。

日本

地域の憩いの場「ふるさとの森」が自然共生サイト認定を取得

YKK黒部事業所内にあるYKKセンターパークでは、黒部の原風景の再現を目指して、2008年から「ふるさとの森」の整備を進めてきました。地域に原生する樹種20種類の苗木2万本を植樹して森や水辺の再生に取り組み、今では370種以上の多種多様な生物を育む森となり、子どもたちの環境教育や地域の憩いの場として活用されています。このような活動をふまえ、ふるさとの森は、2023年10月に民間等の取り組みで生物多様性保全が図られる区域を認定する環境省の制度「自然共生サイト」として初回認定を受けました。



YKKセンターパーク ふるさとの森

社員の声



環境・安全管理部
中島 智美

今回ふるさとの森で自然共生サイトの認定をいただき誇りに思います。自然との共生を目指し、この森を後世に大切に残せるように今後も活動を続けます。

パキスタン 子どもたちの工場訪問

2023年7月、YKKパキスタン社の工場で開催された教育イベントに、同社社員の10代の子どもたち43人が参加しました。子どもたちは、実際の仕事現場での実践的な体験学習を通じて、仕事に対する意欲を持ってくれたようでした。技術の進歩によって急速に発展する社会の中で、若者たちの好奇心を育み、可能性を伸ばす機会を提供していくことが必要不可欠であると考えています。今回の工場での学びや体験が、子どもたちの明るい未来への道筋を照らすことを期待します。



参加証を受け取った子どもたちと社員

メキシコ 地域の小学校の環境改善支援

1994年に設立されたYKKメキシコ社は、衣料やスポーツアパレルをはじめ幅広い分野で顧客のニーズに応え、北米地域での事業の発展と地域における雇用創出に貢献してきました。同社は2023年4月、社員の4割が住むロマ・デ・フローレス市のフランシスコ・ヴィラ小学校に寄付を行いました。同小学校には地域に住む815名の児童が通っており、学校施設を改善するための建設プロジェクト用の資材を寄贈しました。YKKメキシコ社は、今後も地域に根差した事業活動を展開していきます。



完成した小学校の校舎

中国 「善の巡環」に基づく社会貢献プログラム

中国で最初の現地法人として1992年に設立した上海YKKジッパー社では、YKK精神「善の巡環」に基づき、さまざまな社会貢献活動を行ってきました。2023年9月には、地域の子どもたちを支援するプログラムとして、教育資源が不足する貧困地域の小学校をYKKのスタッフが訪問し、パソコンやペンケースなどを寄贈するとともに、子どもたちとの交流を図りました。困難の中にある子どもたちが愛のある環境で成長し、未来を切り開いていく手助けができるよう、今後も活動していきます。



子どもたちと交流する社員

イタリア ファッション分野の社会的企業をサポート

世界に誇るファッションの国、イタリアで設立56年を迎えたYKKイタリア社では、自社と縁の深いファッション分野での社会貢献に取り組んできました。同社は2023年、ヴェローナを拠点にアパレル製品を企画・生産する社会的企業Quidの活動に賛同し、ファスナーを提供しました。Quidは、社会的に不利な状況に置かれている人々に雇用の機会を提供するとともに、ファッション業界から提供される余剰素材を使ってサステナブルな製品を生み出しており、YKKはこれからも、同じ志を持つパートナーとの連携の輪を広げていきたいと考えています。



YKKファスナーを使用したQuidの製品